

# 一般社団法人日本解剖学会 2019(令和元)年度第11回理事会議事録

日時：2019年12月15日(日) 13:30~17:00

場所：A P 東京八重洲通り・12階Fルーム

出席者：八木沼洋行(理事長)、渡辺雅彦、西 真弓、野田泰子、牛木辰男(以上、常務理事)、大塚愛二、尾崎紀之、小澤一史、城戸瑞穂、小路武彦、佐藤 真、篠田 晃、福田孝一、藤山文乃、堀 修、八木秀司(以上、理事)、木山博資、藤本豊士(以上、監事)、松崎利行、阪上洋行(以上、常任幹事)、宍戸基行、中村 聡(以上、口腔保健協会)

欠席者：天野 修、岡部繁男、千田隆夫(以上、理事)

## I. 議事録署名人の選任

定款第39条の規定により、木山・藤本両監事を選出した。

## II. 会議記録の確認

以下の議事録が確認された。

- (1) 2019(令和元)年度第5回理事会(2019(平成31)年3月26日開催)議事録(案)
- (2) 2019(令和元)年度定時社員総会(2019(平成31)年3月27日開催)議事録(案)
- (3) 2019(令和元)年度第6回理事会(2019(平成31)年3月27日開催)議事録(案)
- (4) 2019(令和元)年度第7回理事会(2019(平成31)年3月28日開催)議事録(案)
- (5) 2019(令和元)年度第8回理事会(2019(令和元)年7月5-16日開催)議事録(案)
- (6) 2019(令和元)年度第9回理事会(2019(令和元)年7月24-31日開催)議事録(案)
- (7) 2019(令和元)年度第10回理事会(2019(令和元)年9月20日-10月1日開催)議事録(案)

## III. 報告事項

### 1. 庶務報告

#### (1) 教授就任による代議員の承認について

資料に基づき、教授就任による以下の4名の代議員申請者について、常務理事会で承認されたことが報告された。

畠山 雄次 先生(福岡歯科大学・生体構造学講座・機能構造学分野・教授 2017年10月1日就任)

嶋 雄一 先生(川崎医科大学・解剖学教室・教授 2019年4月1日就任)

高橋 和男 先生(藤田医科大学医学部・解剖学II・教授 2019年5月1日就任)

大庭 伸介 先生(長崎大学・生命医科学域(歯学系)・細胞生物学分野・教授 2019年5月1日就任)

石津 綾子 先生(東京女子医科大学・解剖学(顕微解剖学・形態形成学分野)・教授 2019年6月24日就任)

後藤 英仁 先生(三重大学・医学部/大学院医学系研究科・神経再生医学・細胞情報学・教授  
2019年10月1日就任)

石田 雄介 先生(東北医科薬科大学・医学部・解剖学教室・教授 2019年10月1日就任)

上村 守 先生(大阪歯科大学・歯学部・解剖学講座・教授 2019年11月1日就任)

和氣 弘明 先生(名古屋大学大学院医学研究科・機能形態学講座・分子細胞学・教授 2019年11月1日就任)

#### (2) 男女共同参画学協会連絡会報告

資料に基づき、第18期第一回運営委員会(令和元年12月9日開催)の議事内容として、来年度の一般社団法人化の予定が報告された。また、第17期シンポジウムに提出した本学会の活動報告内容として、本学会の男女共同参画の現状(女性会員が19.46%を占めていること、2019-2020年度の女性理事は4名、女性常務理事は2名であること、女性委員が含まれる委員会が増加傾向にあること)とともに、全国学術集会において主催した第6回男女共同参画推進ランチョンセミナーでは、女性会員より男性会員の参加者が多く、本テーマに関する会員の関心が高いことが窺え、来年度も継続して開催する予定であることが報告された。

#### (3) 支部代議員会報告

資料に基づき、第65回東北・北海道連合支部代議員会(令和元年9月8日(日)開催)、第74回中国・四国支部代議員会(令和元年10月26日(土)開催)、第75回九州支部代議員会議(令和元年11月9日(土)開催)での議事録の内容が報告された。福田孝一先生(熊本大・医)から、九州支部の教育委員会で提案された「解剖実習コンソーシアム九州」について、解剖教育スタッフが他大学の学生実習の時間に見学や剖出体験を行うことで、相互のスキル向上のための研鑽をはかるとことを目的として発足したもので、受け入れ大学として5大学が現在名乗りをあげており、九州支部以外の会員からの参加者も歓迎することが報告された。

- (4) 正常解剖における遺体取り違え防止対策に関する状況調査について  
資料に基づき、正常解剖における遺体取り違え防止対策に関する状況調査の集計結果が報告された。今後、解剖体委員会でデータ解析と提言内容を検討してもらい、その提言内容を常務理事会で再度検討した後、3月に開催予定の理事会と総会で諮り、速やかに状況調査報告とともに再発防止に向けた提言を公表する予定であることが報告された。
- (5) 男女共同参画推進委員会企画ランチョンセミナーアンケートについて  
資料に基づき、男女共同参画推進委員会企画ランチョンセミナーアンケートの集計結果が報告された。
- (6) 献体における外科手技研修調査、ホルムアルデヒド濃度測定アンケートについて  
資料に基づき、① 次回の献体における外科手技研修調査とホルムアルデヒド濃度測定アンケートを来年度に実施する方向で準備していること、② 「解剖学教室における感染症対策に関するアンケート調査」を9月に学会ホームページに掲載したことが報告された。
- (7) 日本外科学会CST推進委員会報告  
資料に基づき、令和元年度第1回CST推進委員会の議事内容が報告され、本年度の厚生労働省「実践的な手術手技向上研修事業」の予算が前年度同様に2億9,500万円となったことと、産官連携における献体使用に関するアドホック委員会で作成中のガイドラインQ&Aの内容が説明された。
- (8) その他  
特になし。

## 2. 編集報告

- (1) ASIについて  
資料に基づき、① ASIの2018年度の投稿数(276件)に対するインセンティブボーナスとして、シュプリンガー社より91,728円が入金されたこと、② ASIの2018年度のIFが1.566に上昇したこと、③ 著者・学会とシュプリンガー間の著作権・出版権に関する取り決めの同意書が、Copyright Transfer StatementからLicense to Publish (LTP)へ移行する予定であることが説明された。ASI編集長の犬塚愛二先生(岡山大・医)より、本年度のASIへの投稿数が昨年度数を大きく上回っていることが報告された。
- (2) 解剖学雑誌電子化について  
資料に基づき、9月末に解剖学雑誌1-80巻の電子化作業が完了したことが報告された。今後、アウトリーチ委員会で、専用サーバーによりパスワード付き会員専用ページでコンテンツを閲覧できるように進める予定であることが説明され、審議の結果、了承された。また、解剖学雑誌バックナンバーは44.3GBと容量が膨大のため、保健協会既存のサーバーでは対応できず、日本解剖学会で専用サーバーを借り上げることが了承された。
- (3) その他  
特になし。

## 3. 企画・渉外報告

- (1) 2019(令和元)年度奨励賞について  
資料に基づき、令和元年度奨励賞の選考過程と選考結果(12月8日選考委員会開催)について説明され、5名の受賞者が報告された。また、現在の募集要項では、主要論文の共著者の同意書を求め、その共著者が奨励賞に将来応募する場合には、主要論文として使用できない状況であるが、近年、共筆頭著者の論文もトップジャーナルでは増加しており、若手研究者の奨励賞の応募の機会を制限することになるのではないかと選考委員会からの意見が報告された。常務理事会での審議の結果、過去に主要論文として使用された場合は、申請書に記載してもらい、選考委員会で個別に審議する方向で、募集要項の変更を選考委員会で検討してもらうこととしたことが報告され、了承された。
- (2) 一級ならびに二級認定技術者審査結果について  
資料に基づき、令和元年度一級ならびに二級認定技術者審査結果(合格判定：一級 1名；二級 4名)が報告された。
- (3) 2020(令和2)年度総会・全国学術集会準備状況について

資料に基づき、会頭の篠田晃先生（山口大・医）から、演題数、プログラム内容などの準備状況が報告された。理事からは、近年、企業からの学会での機器展示やランチョンセミナーの協賛が難しく、全国学術集会運営が厳しい状況となってきていることから、学会として長期的な展望に立った対策が必要であるとの意見が出された。

(4) 2021(令和3)年度総会・全国学術集会準備状況について

資料に基づき、会頭の木山博資先生（名古屋大・医）より、第98回日本生理学会大会との合同大会として開催される第126回日本解剖学会総会・全国学術集会のテーマ（「Back to Basic—根深柢固—」、会期（2021年3月28日～30日）、会場(名古屋国際会議場)、運営組織などの概要が報告された。

(5) 日本医学会・日本医学会連合報告

資料に基づき、① 各種会議の議事内容（第5回研究倫理教育研修会(2019年5月30日開催)、日本医学会連合定時総会ならびに日本医学会臨時評議員会(2019年6月18日開催)、令和元年度女性医師支援担当者連絡会（2019年12月8日開催）、② ドリームスタジオ社からの「Body World～驚異の人体展」への協賛の申請に対して、常務理事会で検討した結果、協賛を差し控えることで回答したこと、③ 日本医学会医学用語管理委員会の「奇形」を含む医学用語の置き換えに関するワーキンググループ（仮称）への本学会からの委員として、三木崇範先生（香川大・医）の就任依頼があったこと、④ 日本医学会連合Rising Starリトリートへの参加者として本学会から6名の若手研究者を推薦したこと、⑤ 第125回・第126回日本解剖学会全国学術集会で開催予定の日本医学会連合加盟学会連携フォーラムに対して、日本医学会連合に補助金申請を行ったことが報告された。

(6) 生物科学学会連合報告

資料に基づき、生科連第19回定例会議(2019年4月2日開催)、第20回定例会議(2019年10月5日開催)、公開シンポジウム2019「魅力ある生物教育を考える-生物離れ。何が問題なのか-」の議事実施内容が報告された。

(7) 日本脳科学関連学会連合報告

資料に基づき、脳科連第9回評議員会(2019年5月18日開催)の議事内容が報告された。

(8) 技術職員における現状と課題についてのアンケートについて

資料に基づき、技術職員における現状と課題についてのアンケートの最終集計結果と分析内容が説明され、今後、認定解剖組織技術者資格審査委員会に具体的な提言内容を検討してもらう予定であることが報告された。

(9) 韓国解剖学会との若手研究者支援事業について

資料に基づき、本学会から5名を派遣した韓国解剖学会との合同シンポジウム(2019年10月18日開催)と来年度の第125回全国学術集会での日韓シンポジウムの実施内容が報告された。来年度の第125回全国学術集会への韓国解剖学会からの派遣予定者7名に対する宿泊費の負担については、大会本部と学会で対応することとした。

(10) 若手研究者の会について

資料に基づき、本年度から開催した「若手研究者の会 夏の学校」（2019年8月24日～25日開催）の実施内容（参加者27名）と総括が報告された。

(11) 20th IFAAについて

資料に基づき、第20回国際解剖学会が2024年に韓国で開催されることが決定したことが報告された。国際解剖学会とは2009年より距離を置いている状況ではあるが、韓国解剖学会への協力を通して、今後の関係性を再検討することが報告された。

(12) その他

4. 会計報告

(1) 支部学術集会決算について

資料に基づき、第65回東北・北海道支部連合学術集会、第79回中部支部学術集会、第95回近畿支部学術集会、第74回中国・四国支部学術集会について収支決算報告があった。

(2) 2019(平成31/令和元)年度総会・全国学術集会収支決算について

資料に基づき、第124回総会・全国学術集会収支報告があった。第124回総会・全国学術集会会頭より提出

された収支決算報告書（案）について、支出項目の内訳の詳細な記載を求めることとした。

(3) 2019(令和元)年度中間決算書について

資料に基づき、令和元年度中間決算報告書（平成31年1月1日～11月30日）、特別会計（名簿作成積立金）決算報告書（平成31年1月1日～11月30日）、特別会計（特別事業積立金）決算報告書（平成31年1月1日～11月30日）について、おおむね例年通りの推移であることが説明された。

(4) その他

特になし

5. 理事長報告

(1) 日本理学療法士学会からの依頼における対応について

日本理学療法士学会からの理学療法士養成課程における解剖学教育の在り方に関する検討会の設置に関する依頼について、令和元年11月15日付で日本解剖学会からの回答を送ったことが報告された。

(2) 常任幹事1名追加について

資料に基づき、常任幹事として竹林浩秀先生（新潟大学）を加え、3名体制とすることが報告された。

IV. 審議事項

1. 名誉会員・永年会員の推薦について

資料に基づき、大野伸一先生の名誉会員推薦について説明があり、審議の結果、名誉会員として推薦することで承認された。永年会員推薦については17名の候補者について資格を確認した。また、名誉会員への副賞のメダルについて、そのデザインを検討し、奨励賞および功労賞のメダルの裏面デザインを採用し、表面は名誉会員用の新規デザインとすることとした。

2. 申請による代議員について

資料に基づき、7名の申請による代議員申請状況が説明された。会員歴が代議員選出規程申し合わせの基準に満たない申請者1名については、対象外として投票しないことが確認され、6名について理事による投票をおこなった。投票の結果、6名の申請者について承認された。

3. 2019(令和元)年度認定技術者功労賞について

資料に基づき、2019(令和元)年度認定技術者功労賞申請者3名について説明があり、理事による投票の結果、3名の申請者について承認された。

4. 委員会主催のシンポジウム・ワークショップに関する規約見直しについて

資料に基づき、学術委員会からの問い合わせ内容について説明があった。第125回全国学術集会での学術委員会主催の日本顕微鏡学会との合同シンポジウムの演者のうち、非会員の懇親会参加費を謝金として支払いできないかとのことで、審議の結果、交流協定を結んでいる日本顕微鏡学会と日本生理学会から合同シンポジウムに参加する演者については懇親会費を無料とする方向で会頭をお願いすることとした。また、委員会主催シンポジウムにおける非会員演者への旅費支弁について、申し合わせで明らかにされていないので、今後検討することとした。

5. 2023(令和5)年度総会・全国学術集会開催校について

資料に基づき、2023(令和5)年度総会・全国学術集会開催校について、9月より募集をおこなっているが、現時点で応募がないことが説明され、引き続き検討することとした。

6. 10th APICAについて

資料に基づき、2022年に開催予定の10th APICAについて、開催国として立候補する予定であることが理事長から説明された。これに伴いAPICAの会頭を決める必要があることが確認された。APICA開催の場合は、第127回総会・学術集会との同時開催を予定しており、第127回総会・学術集会会頭の佐藤 真 先生（大阪大学）から、同時開催の場合の会期は2022年3月26日～29日とし、会場として京都市勧業館 みやこめッセを予定していることが説明された。また、2020年に中国で開催される9th APICAに日本解剖学会として協力することも確認された。

7. 死体解剖資格取得申請に関する問題提起について

資料に基づき、死体解剖資格取得申請に関する問題提起について説明があった。肉眼解剖学の経験が不十分でありながら資格申請をすることについて懸念する内容の問題提起であり、学会としては会員向けの指針を示すこと

で対応したらどうかとの意見が出され、継続審議となった。

8. 学会センタービルの閉鎖について

資料に基づき、倉庫して賃借している学会センタービルの賃貸契約を令和2年度中に解除することが提案された。保管されている書類については必要なものは口腔保健協会倉庫に移動し、処分可能なものについては処分することとした。

9. 2020(令和2)年度事業計画案について

資料に基づき、2020(令和2)年度事業計画案について説明があった。例年通りの計画であるが、その他の事業として名簿作成を加えることとした。

10. 2020(令和2)年度仮予算書案、ならびに事務委託契約について

資料に基づき、2020(令和2)年度仮予算書案について以下の説明があった。おおむね令和元年度の実績をもとにした予算書案となっているが、役員選挙実施年度で役員非交代年度であるため、関係する経費に変動がある。特別事業積立金支出の部では、若手研究者の会運営費を引き続き500,000円予定している。以上について、審議の結果承認された。また、学会事務局から事務委託契約について説明があり、審議の結果、2020(令和2)年度も口腔保健協会に事務委託を契約することとした。

11. 次回理事会日程の確認

次回（2020(令和2)年度第1回）の日程について

日時 2020(令和2)年3月24日（火）14：30～17：00

会場 ANAクラウンプラザホテル宇部（4階：部屋未定）

12. その他

特になし

上記の2019年(令和元年)度第11回理事会の議決および確認事項を明確にするため、この議事録を作成し、議事録署名人(監事)はここに記名押印する。

2019年(令和元年) 月 日

一般社団法人 日本解剖学会

議長

署名人

署名人